

熊本県博物館ネットワークセンターだより 熊本の自然と文化



No. 54

編集・発行 熊本県博物館ネットワークセンター

2023年3月10日

©2010 熊本県くまモン

イベント情報（令和5年3月～令和5年6月）

企画展 会場：熊本県博物館ネットワークセンター 入場無料

第5回企画展「身近で出会う ちょっとあぶない？ 植物」

庭、道ばた、田畠、公園…身近な環境には、いろいろな植物があふれています。植物の中には、さわるとケガをしたり、かゆくなったりと、「ちょっとあぶないな？」と感じる植物たちもいます。その「あぶない？」のひみつをさぐり、植物たちの生き残り戦略を、当センター所蔵の標本や写真で紹介します。

○ 開催期間 令和5年3月14日（火）
～5月14日（日）

関連企画 展示解説会

日時：4月30日（日）10:30～11:30 場所：博物館ネットワークセンター ギャラリー
※申し込みは不要です。当日開始時間までに会場にお越しください。



博物館ネットワークセンターからのお知らせ

熊本県総合博物館ネットワーク・ポータルサイト「熊本どこでもミュージアム」

熊本県総合博物館ネットワーク・ポータルサイト内の「熊本どこでもミュージアム」では、県内のミュージアムが作成した自然や文化の魅力についての紹介や自宅でできる実験・創作の紹介などの動画コンテンツを「バーチャルミュージアム」、「ミュージアムをのぞいてみよう」、「できた！みつけた！」の3つのコーナーで紹介しています。

ぜひ、のぞいてみてください！

熊本県総合博物館ネットワーク・ポータルサイト
「熊本どこでもミュージアム」

<https://kumamoto-museum.net/kumadoko>



博物館ネットワークセンターの学習支援活動、展示活動

熊本県博物館ネットワークセンターでは、学習支援活動として学校やPTA活動、子ども会活動などで利用できる「移動体験教室」、学校や教育施設等への動物・植物・地質・歴史・民俗の各分野職員の「講師派遣」を受け付けています。また、展示活動として学校や公民館等での「移動展示」、学校での「学校移動展示用パッケージ」及び、図書館や公民館等での「図書館・公民館等移動展示パッケージ」の運用を行っています。

詳細は博物館ネットワークセンターホームページをご覧ください。

<移動体験教室プログラムの一例>古銭レプリカを作ろう・貝殻クラフト
<図書館・公民館等移動展示パッケージの一例>郷土玩具・水辺の昆虫たち



No. 279
歴史

「贈安藤氏」(高森町安藤家資料)

本資料の包紙(図1)を見ると、自作の詩文を謙遜している時に使用される語句の「巴調」(はぢょう)と作者と見られる「静修」や漢詩本文(図2)には「道静修」とあります。これは、「道家角左衛門」のことです。静修は、この人物が使用していた号です。角左衛門は、幕末の熊本藩において用人や奉行を歴任し、一時隠居しますが、その手腕を請われて熊本藩の少参事や権大参事に任せられています。

表題には、「安藤氏」とありますが、この人物は、「安藤幸足」のことです。先代の野尻川上神社社司であった父安藤常正から天保5年(1834)に社司を受け継ぎ、慶応元年(1865)まで務めました。本文は、112字からなり、文中には、「孝子」の文字をいくつか見ることが出来ます。これは、江戸時代末期に幸足と当時熊野大神宮神主を務めていた岩下公幸が共同で編修した『肥後続孝子伝』のことを示しており、漢詩は、そのことを賞賛した内容となっています。この時の様子を幸足が記した『家録 第五』の文久2年(1862)9月26日の項を見ると、同年閏8月21日から阿蘇南郷郡代を務めていた角左衛門が参拝し、草庵に立寄り、幸足に熱情の仰せがあったと記録され、他にも和歌や同じ漢詩が書き残されています。

高森町安藤家資料の中に幸足と角左衛門との関係がわかる資料は今回ご紹介した漢詩と『家録 卷五』にあった記述だけです。両者が孝子を通じて文化的な関わりをもっていたことがわかる唯一の証拠ともいえます。(堤 将太)



図1 包紙上書部分

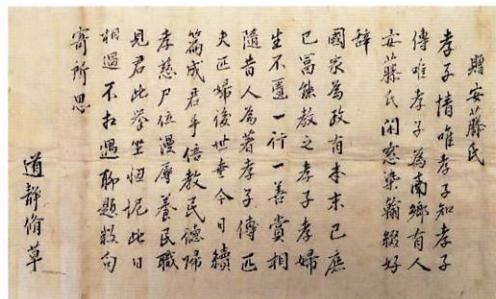


図2 贈安藤氏 本文

No. 280
地学

輝安鉱 Stibnite

アンチモンは、鉛や錫との合金が活字や工芸品に用いられたり、酸化物がプラスチックや繊維の難燃助剤になったりする原子番号51の半金属の元素です。このアンチモンの原料の1つが輝安鉱です。

輝安鉱は針状や柱状の結晶が多く、柱面には伸びの方向と平行な条線があります。銀白色で金属光沢がありますが、表面が錆びやすいので黒ずんだ色になります。爪で傷がつくくらい軟らかい鉱物で、結晶に力を加えるとたわみます。また、融点が525°Cと低く、ロウソクの炎で融けるという特徴があります。

図は、球磨郡多良木町櫻木で稼働していた櫻木鉱山産の輝安鉱で、柱状結晶の集合体です。約3500万年前(新生代古第三紀)に形成した四万十帯日向層群の黒色頁岩に貫入する石英脈中に含まれています。この石英脈は、マグマで熱せられた熱水が岩石中を移動する際に熱水中の成分が沈殿したことできる鉱床(熱水鉱脈鉱床)です。櫻木鉱山の東にある宮崎県児湯郡西米良村の天包山から村所一帯でも、同様の鉱床から輝安鉱が採掘されていました。これらの鉱床は、約1400万年前(新生代新第三紀)の村所花崗岩の活動によってできたと考えられています。

櫻木周辺では、第二次世界大戦中に輝安鉱鉱山の開発が行われましたが、昭和30年代までには全て閉山したことです。(廣田 志乃)



図 輝安鉱

No.281
民 俗

買い物籠

買い物籠は買い物に使う手提げの籠です。スーパー・マーケット（スーパー）がなかったころは、魚屋、肉屋、八百屋などをまわって必要なものを必要な分だけ買い、新聞紙や竹の皮などに包んでもらい、買い物籠に入れて持ち帰っていました。

買い物籠には竹やいぐさ、藤（図1）など様々な素材のものがありました。図2のようなビニールを巻いた針金で編んだ買い物籠は昭和30年代から40年代に広く使われていました。頑丈で形が安定しているので中のものが壊れにくく、水に強く手入れが楽で、さらにカラフルなビニールで様々なデザインを楽しむことができました。

スーパーが手提げのついたポリ袋、いわゆるレジ袋を導入したこと、買い物籠に転機が訪れます。県内でも昭和40年代から増えだしたスーパーでは最初は紙袋が使われていましたが、レジ袋が登場すると、水に強くかさばらないなどの利点から一気に切り替わり、さらに、買った物をレジ袋に入ってくれるスーパーのサービスが広まって、昭和50年代にはスーパー以外の多くの店でも商品をレジ袋に入れて渡すようになったため、買い物籠は必要ではなくなり姿を消していきました。しかし、平成に入ると、環境や資源の問題から買ったものを自分の袋や鞄に入れてレジ袋をもらわないという「マイバッグ運動」が広まり、買い物籠は再び見直されています。（迫田 久美子）

No.282
動 物

カダヤシ *Gambusia affinis* (カダヤシ科)

カダヤシ（図1）は、北アメリカ原産の淡水魚の一種で、日本にはカの幼虫であるボウフラを駆除する目的で1910年代に持ち込まれ、その後全国に拡がりました。本種の和名も「蚊絶やし」から来ています。メダカ類（ミナミメダカ・キタノメダカ）に姿がよく似ているため間違われることが多いのですが、実際には遠縁で、両者は尻びれの形などで区別することができます（図2）。

本種とメダカ類は、姿のみならず餌資源や生息環境にも共通する部分が多いため、両者の間にはこれらを巡る競合が生じていると考えられています。全国的なメダカ類減少の一因とされており、2006年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（通称：外来生物法）における特定外来生物に指定されました。これにより飼育や生きた個体の運搬などが禁止され、メダカ類と間違えて持ち帰ったり飼育することも違反となるため、特に注意が必要です。

図1の標本は宇城市で採集されたものです。この場所は素掘りの水路で、典型的なメダカ類の生息環境でしたが、残念ながら全てカダヤシに置き換わっていました。（中薦 洋行）



図1 藤の買い物籠
熊本市中央区



図2 針金の買い物籠
宇城市松橋町



図1 カダヤシ標本(宇城市産)

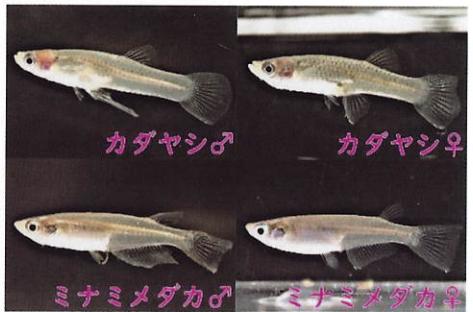


図2 カダヤシ(上段)とミナミメダカ(下段)(いずれも宇城市産)

No. 283
植物スズラン *Convallaria majalis* var. *mansurica*
(クサスギカズラ科)図1 スズランの標本
(一の宮町 1970年採集)

スズランは山地の草原などに生育する多年草で、その白く可憐な花やかわいらしい和名で多くの人に親しまれている植物です。日本では主として北海道や本州の標高が高いところに分布しているスズランが、温暖な九州に位置する熊本県にも分布していることが明らかになったのは意外に最近のことです。1970年（昭和45年）に阿蘇郡一ノ宮町（現、阿蘇市）で、ついで1974年（昭和49年）に阿蘇郡波野村（現、阿蘇市）で見つかりました。波野村の自生地は、発見時には新聞報道もされ、1976年（昭和51年）には熊本県の自然環境保全地域に指定されています。

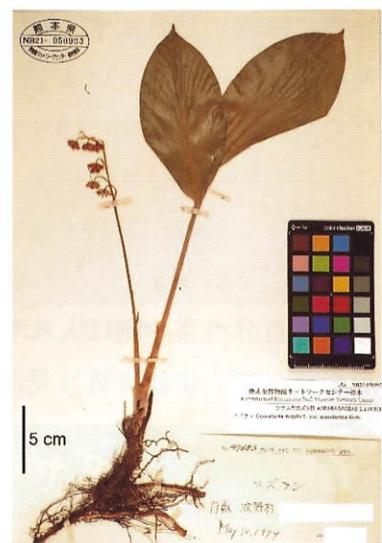
図1と2の標本は、採取地および採取日の記述から、おそらく一の宮町および波野村の自生地の発見時、もしくはその直後に証拠標本として採取されたものと思われます。当センターが収蔵する以前は、熊本大学理学部の植物標本庫に収蔵されていたものです。熊本県

の自然を記録する貴重な標本として保管されていたようです。

花の時期の標本で、地下茎があり、二枚の橢円形の葉が出て、花は葉とは別の茎に複数付くなど、植物の特徴がよく保存されている素晴らしい標本です。特に波野村の標本（図2）は、一つ花については花被を開き、おしべの形や色を確認できるようにしております（図3）、標本作成者の豊富な植物知識と高い技量、標本に対する熱意がうかがえます。

図3 波野村産標本（図2）の
花の拡大

この可憐なスズランですが、実は植物体全体にコンバラトキシンという毒成分を含んでいます。主な分布域である北海道や本州では、山菜と誤認して食べてしまい、食中毒となる事故もあるようです。自生地が限られる熊本県でスズランを食べてしまうことはほぼないでしょうが、安心は禁物です。園芸で利用されるヨーロッパ原産の近縁種ドイツスズラン *C. majalis* var. *majalis* も有毒です。植える際は、家庭菜園と隣接させないなど注意が必要です。（前田 哲弥）

図2 スズランの標本
(波野村 1974年採集)熊本県博物館ネットワークセンター
JP-2004104

〒869-0524 宇城市松橋町豊福1695
TEL: 0964-34-3301 FAX: 0964-34-3302

E-mail: hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp
HP: <https://kumamoto-museum.net/kmnc/>

[公共交通機関]

○九州産交バス

松橋バスターミナルより宮原経由
八代産交行き「希望の里入口」下車

○JR

松橋駅より約3km

